

芸道伝書の発展経過の数理文献学的考察

— Split decomposition, Spectronet —

矢野 環

埼玉大学理学部数学科 (2005.4 より、同志社大学文化情報学部)

概要 順徳天皇の企画により、藤原定家主導で編纂された『建保内裏名所百首和歌』は、様々な形態かつ内容の写本群が錯綜しており、未だに全体像が把握されていない。文献解析学的手法として数量化 III 類、Splits Tree (Split decomposition, Neighbor net) 等を援用し、定家自筆三人本の存在が想定できること、通行の三人本はそれとは別の経緯で成立したことなどが明らかとなった。

はじめに

建保三年九月に順徳天皇は、百首歌を名所題によって催すことを発企した。その第一次本は、十月末には成立したと思われる(『明月記』)。その伝本には、順徳天皇・定家・家隆をはじめとする十二人の歌全体を記述するもの([森本・田村]に詳しい)、その三人の歌のみを収めるものなど様々な形態のものがあり、さらには注釈を付した有注本も存在する(末尾の2頁の写本例参照)。これらの諸本がどのように成立したかについては、幾つかの仮説が発表されている。ここでは、それらの仮説を改めて検証し、かつ数理文献学的手法を援用して、写本の分類・系統と、三人本の成立経過について仮説を与えたい。

1 数理文献学—文献解析学—

近代文献学の祖ラハマンは、系譜法(Stemmatics)を提唱したことで名高い。日本では、池田亀鑑が『土左日記』の研究において一般論をも詳述し、紀貫之自筆蓮華王院本を復元したことが大きな成果としてしられる([池田])。その場合は、良質な写本が存在した幸運があった。一般に写本群は別の系統の語句を取り入れて混態(contamination)したものが多く、纏まった一部分が全く別系統(block mixture)という場合もある。これらの場合は、素朴な系譜法は誤った系譜を与え、文献学的に役に立たなくなる。それは、系譜建設に生物の系統学的手法(Cladistics)を単純に用いる場合もそうであり、樹形図を与える PAUP* による解析は、混態写本を取り除かねばならず、また校合 data も生の儘では必ずしも適切ではない。混態のある写本を入れたままで完全な処理はまだ出来ない。しかし、混態かどうかは本来は系統が定まってから明らかとなる。また、校合 data の恣意的な改編は慎まねばならない。そこで、可能な限り客観的処理を行う必要がある(但し、“客観的”手法から得られた結果に、恣意的な解釈を行うことは厳に慎まねばならない。結果は data 依存)。

通常有る程度写本群に慣れて見通しがつけば、おおよそどのような系譜であったかは想像がつく。しかし、莫大な校合データ(『土左日記』異文統合表は、一頁25項目前後で150頁ある)と、写本の奥書等の情報を総合して考察するのはかなりの経験と勘を必要とする。そこで、数理的手法の援用が望まれる。校合データの親近性を数量化 III 類で見るとは最も簡便な手法であり、そのみでもかなりの成果を得る([矢野])。また、系統樹を得る為 PAUP* も 1980 年代から有効に利用されてきた。しかし、Canterbury Tales Project では、写本群の混態が激しく、PAUP* では誤系譜を与えることとなり、Splits decomposition を

用いた手法が有効と認められた (図 1)。筆者も、その有効性を『利休百会記』の写本群で確認した (図 2)。かなり混態があっても、本質的な部分を抽出して、適切な分類系譜を与える。しかし、奇妙な混態写本があると、この手法ですら混乱した結果を与える事がある。それが、『内裏名所百首』の場合である。

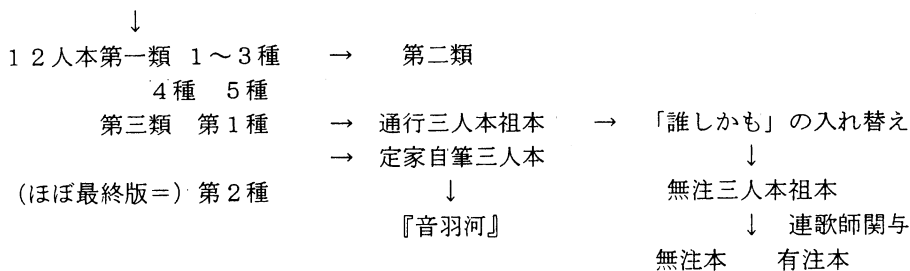
『内裏名所百首』では、12人本と3人本の関係が重要である。そこで和歌の異文をデータとして処理すると、図3のようなものが得られる。これは12人本と3人本のかかなり性格の異なる2群を分離しておらず、適切な結果ではない。しかし、三人本の写本「黒川三」を除外すると、図4のように、左に三人本、右に十二人本が分離する。よって、まずは数量化 III 類で全体の配置を考察し、Spectronet, T-REX, NeighborNet などの他の手法も援用して充分検討する必要がある。混態の状況は、T-REX よりも、NeighborNet の方がよりわかり安いと思われる (“水掻き” の広いところは相互に影響がある)。

Cladistics を利用する場合でも、オランダ学派はデータの選別を重視するが、Robinson は全体を用いる。数理文献学的手法として、Spectrum 分解、LSA(Latent Semantic Analysis)や因子分析が用いられることもある (後 2 者は共観福音書問題の講演を参照)。

2 成立経過

詳細は別途与えるが、写本の姿も考慮して、次のような成立経過が伺われる。

建保三年十月末提出本



[池田] 池田亀鑑、『古典の批判的処置に関する研究』(1～3)、岩波書店、1941.2

[矢野] 矢野環、『君台観左右帳記の総合研究』、勉誠出版、1999.2

[森本・田村] 森本元子・田村柳老、『内裏名所百首』、古典文庫 496、1988.2

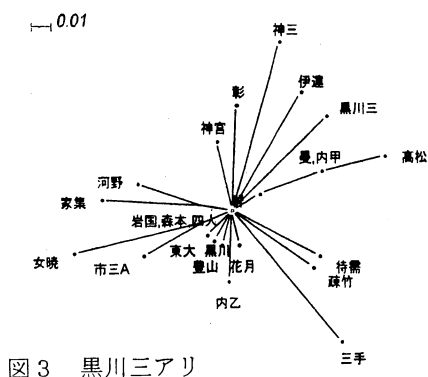


図3 黒川三アリ

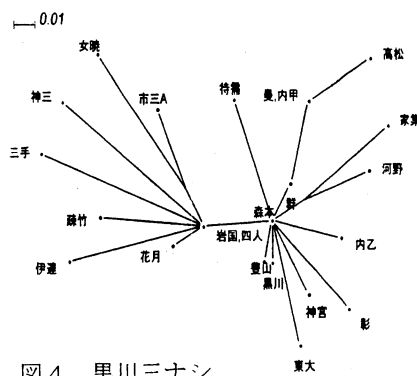


図4 黒川三ナシ

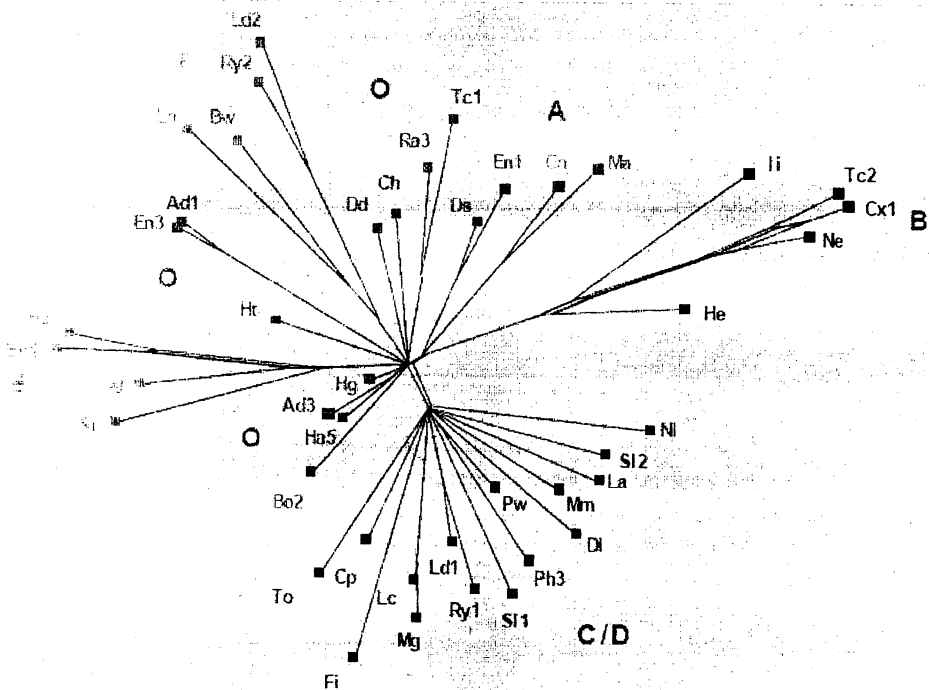
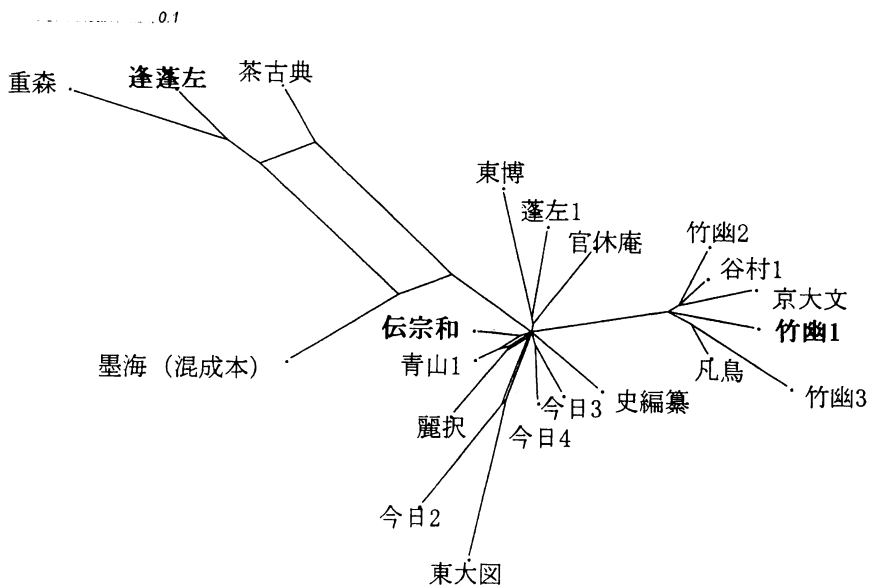


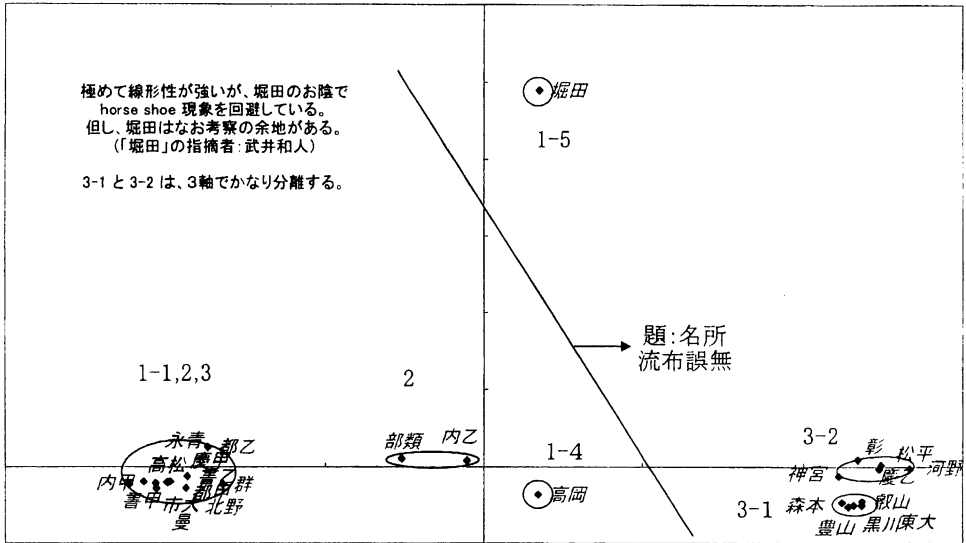
図1 Canterbury Tales Project における、写本系統図. Split Decomposition.
Peter Robinson et al: NATURE, VOL 394, 27 AUGUST 1998



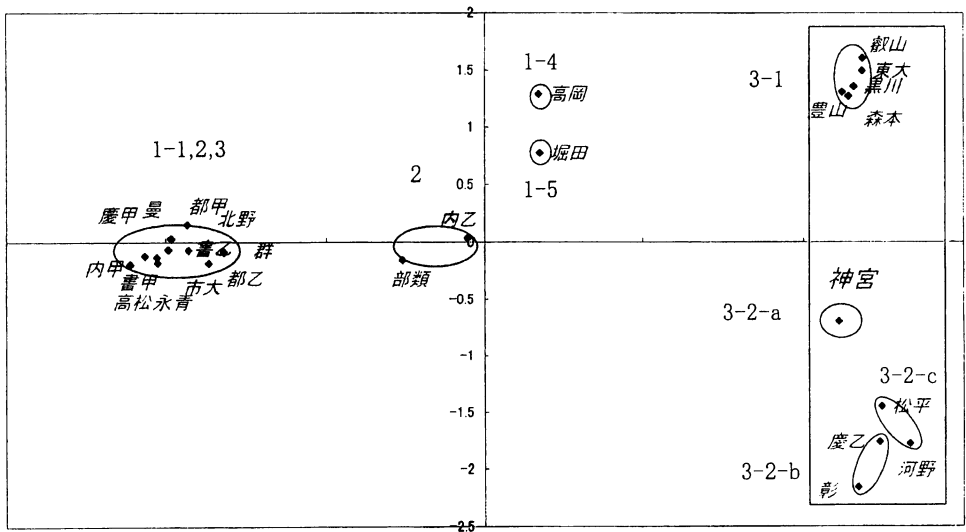
Computed by SplitTree4

図2 『利休百会記』の場合。良く系統を把握していると判断される。

12人本 全体 (田村氏のdataに、神宮を補足)

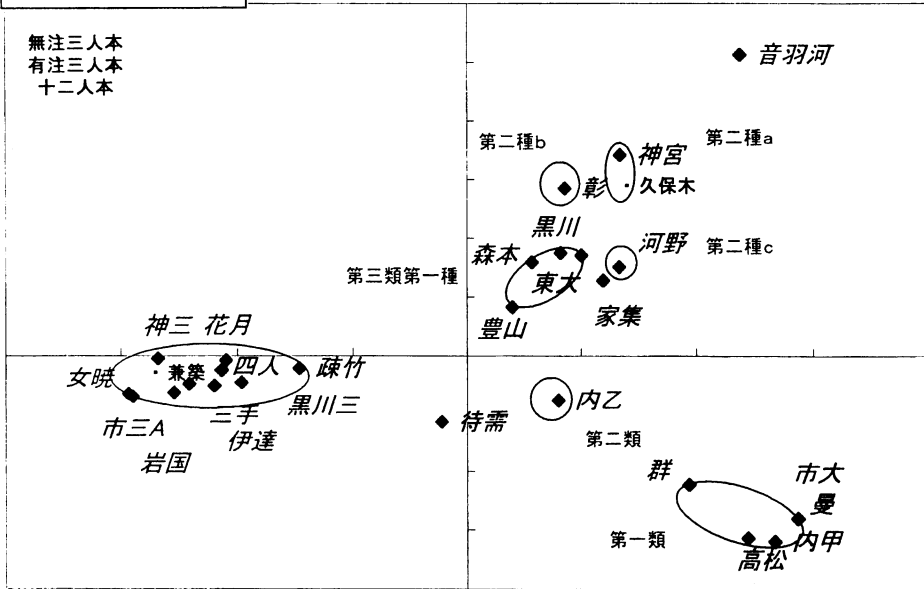


十二人本 1-3軸

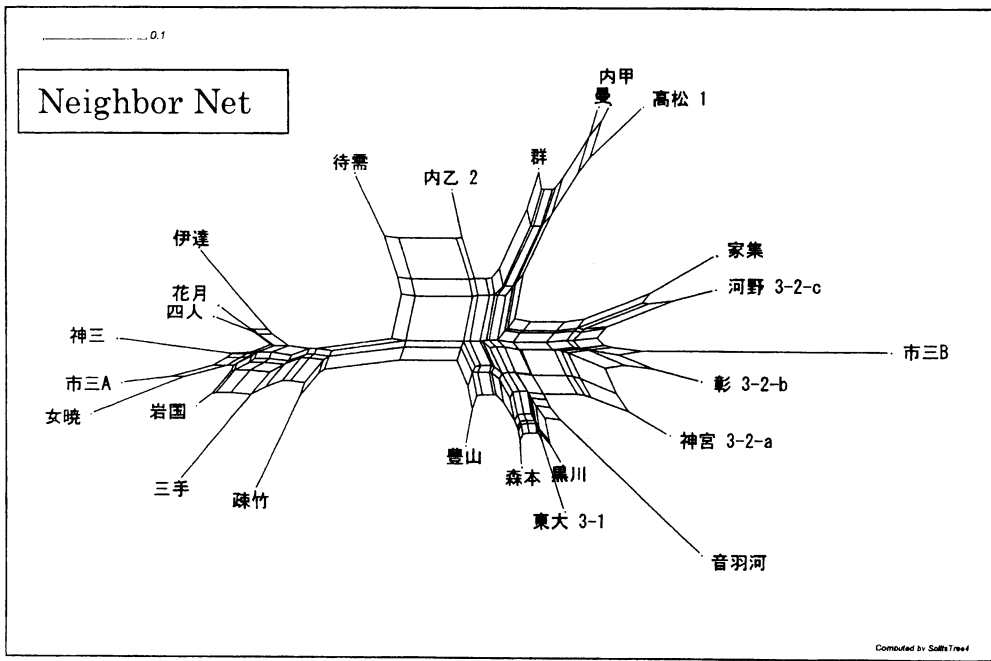


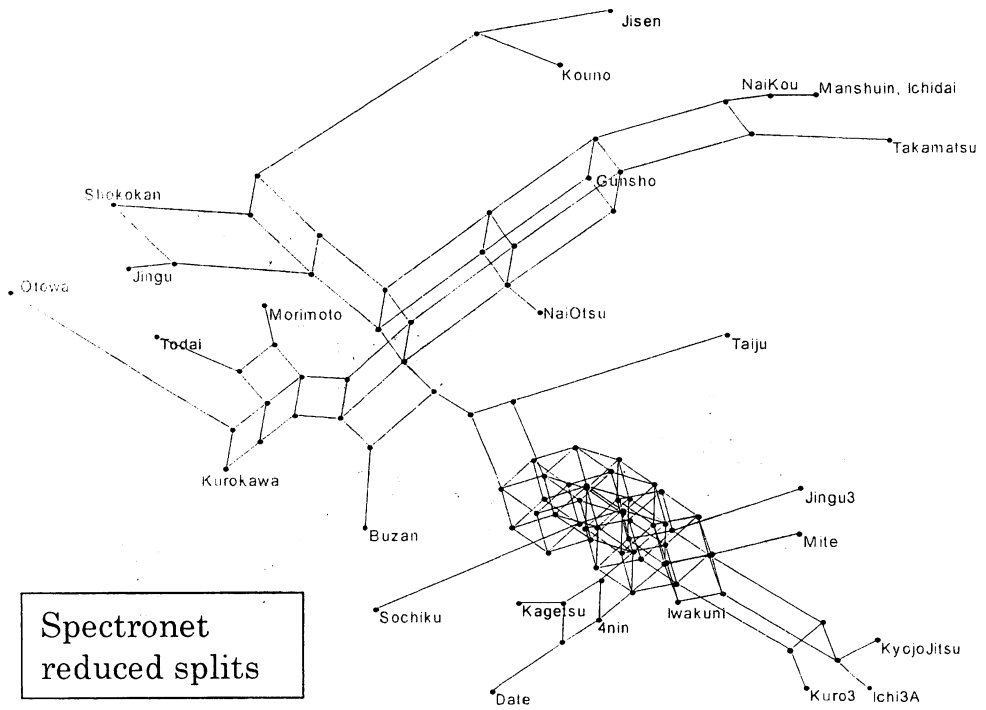
数量化 III 類

「三人本」と「十二人本」の位相



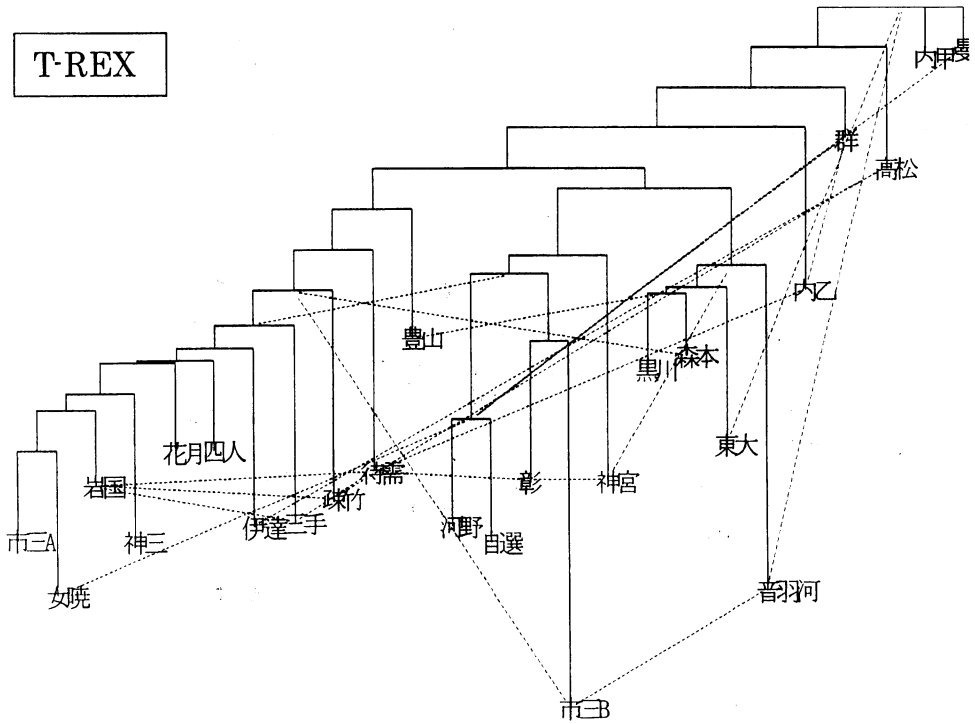
Neighbor Net



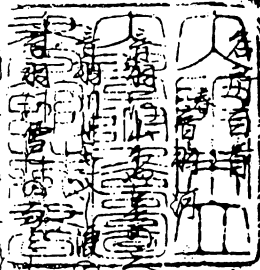


Spectronet
reduced splits

T-REX



30368



小 一

中央図書館

大阪大学
大立
6.10
中央図書館

水かゝるまの浪の音羽のてやに山とてつる鳥 倭交
山嵐に響く浪の音羽川水と合て響かきに響り内侍
遠坂の関の音の音羽川音にきつる響かきに響り内侍
妻まらとてせの浪の音羽の水う捲きて山を吹かき響り

春二十首

音羽川

女房

よは川にわが浪のしる音響かきに響り
よは川にわが浪のしる音響かきに響り
よは川にわが浪のしる音響かきに響り
よは川にわが浪のしる音響かきに響り
よは川にわが浪のしる音響かきに響り
よは川にわが浪のしる音響かきに響り
よは川にわが浪のしる音響かきに響り
よは川にわが浪のしる音響かきに響り
よは川にわが浪のしる音響かきに響り
よは川にわが浪のしる音響かきに響り

J-30526

右市二百首和歌
音羽川
順徳院
定家

小 一
中央図書館
6.10
中央図書館

相坂の玉島ありの音羽川を流るる音響かき
玉島川 肥前
玉島川 肥前
玉島川 肥前
玉島川 肥前
玉島川 肥前
玉島川 肥前
玉島川 肥前
玉島川 肥前
玉島川 肥前
玉島川 肥前

9.11.147
JUN
森文庫

森 文庫

森 文庫

J-30354

建保三〇 以瀬川 定家
建保三〇 以瀬川 定家
建保三〇 以瀬川 定家
建保三〇 以瀬川 定家
建保三〇 以瀬川 定家
建保三〇 以瀬川 定家
建保三〇 以瀬川 定家
建保三〇 以瀬川 定家
建保三〇 以瀬川 定家
建保三〇 以瀬川 定家

上 十二人本 右市大 左森本 下 三人無注本 右市三A 左市三B

冬三首

音羽

山城



春の山も雪も白く
あけの空も青く
あけの空も青く
あけの空も青く
あけの空も青く
あけの空も青く
あけの空も青く
あけの空も青く
あけの空も青く
あけの空も青く

内裏名所御四百首

順徳院御製

前中納言定家

從二位家隆

俊成卿女

春四十首

音羽川 山城



春の山も雪も白く
あけの空も青く
あけの空も青く
あけの空も青く
あけの空も青く
あけの空も青く
あけの空も青く
あけの空も青く
あけの空も青く
あけの空も青く

冬三首御製

順徳院御製

春四十首

音羽川

高研

春の山も雪も白く
あけの空も青く
あけの空も青く
あけの空も青く
あけの空も青く
あけの空も青く
あけの空も青く
あけの空も青く
あけの空も青く
あけの空も青く

上右 三人有注本 早稲田 左 四人本 下 順徳院一人本